

1. 土木図書館ホームページの概要

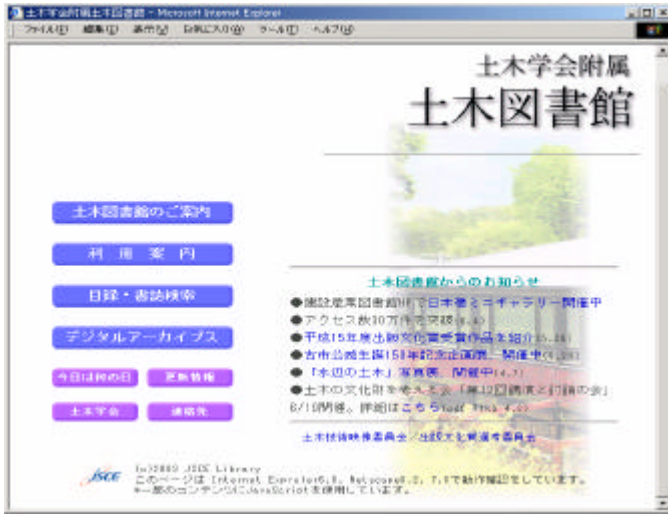


図 1-1 土木図書館 HP トップページイメージ
http://www.jsce.or.jp/library/index.html



図 1-2 土木関連文献データベース検索システム

土木図書館のホームページをご覧になったことはありますか(図 1-1)。ここには通常のインターネットでは得られない、「土木学会ならではの」情報が掲載されています。

そのひとつは「土木関連文献データベース(目録・書誌)検索システム」、書誌検索では土木学会が発行する 23 万件の論文を、キーワードを手がかりに手軽に検索できます(図 1-2)。

ふたつめは、戦前の雑誌や図書、写真、絵葉書などが丸ごと見られる「土木デジタルアーカイブス」、戦前土木学会誌、名著 100 選のうち第 1 期分など雑誌が 1,000 冊、図書が 100 冊、写真が 3,500 点(そのうち関東大震災復興工事関連が 1,200 点)、絵葉書が 3,600 点(そのうち橋梁関連が 2,600 点)、その他「歴史的鋼橋集覧」900 橋のデータベースや戦前のコンクリート示方書などが掲載されています(図 1-3)。

そのほか、土木史年表 WEB 版の「土木 365 日今日は何の日」などもあります。明治以降の 1,500 件の事項が収録されており、その日に起った土木の出来事を見ることが出来ます(図 1-4)。

土木図書館ホームページのアクセス数は、最近 2 年間で 40 万件、毎月 2 万~2 万 5 千件ものアクセスを数えています。ここではさらに多くの方にご利用いただくよう、その主な内容をご紹介します。



図 1-3 土木デジタルアーカイブス

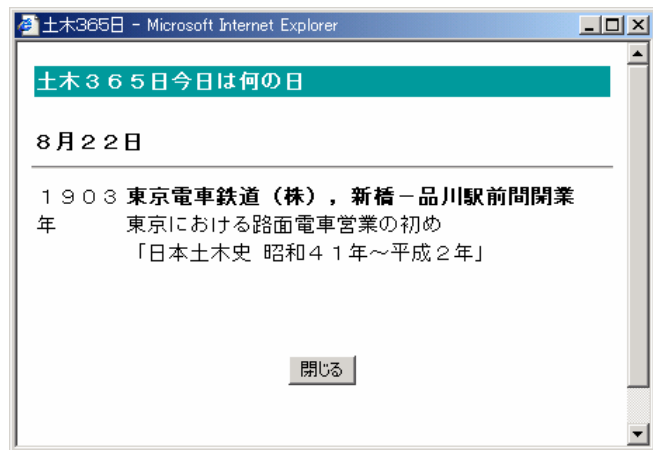


図 1-4 土木 365 日今日は何の日

II. 目録・書誌検索

1. 30万件の土木関連文献を検索

検索システムの目玉は何といっても「書誌（論文）検索」でしょう。学会誌・論文集はもちろん土木学会の活動成果としての全国大会発表論文集や分野ごとのシンポジウム・講演会・委員会論文集、さらには支部論文集も新たに加わり、創刊から最新の文献まで23万件の論文を網羅しているのは、全国でもこのデータベースしかありません。テスト中の土木関連雑誌記事検索7万件も合わせると何と30万件の一大土木文献データベースができあがっているのです。当然ながら図書館が所蔵する蔵書のデータ3万4千件や収録雑誌800タイトルも収録されています（表2-1）。

表2-1 土木図書館が提供するDBの概要

DBの種類	内容	件数	備考
蔵書目録DB	和洋図書・雑誌のタイトル、著者名、発行所名、発行年、頁数などの情報	和書 3万件 洋書 4千件 和雑誌 600件 洋雑誌 200件	土木図書館所蔵の図書、雑誌
書誌DB	学会誌、論文集、年講を含む委員会講演シンポジウム論文集、支部年講論文集、主要土木関連雑誌などの論文毎のタイトル、著者名、巻号・年月、抄録、キーワードの情報	学会誌 2.3万件 論文集 1.1万件 委員会論文集 60種 13.7万件 支部論文集 6万件 主要土木関連雑誌 30種 7万件	学会誌、論文集、委員会論文集、支部論文集は創刊号～最新号までを収録 主要土木関連雑誌は20年分を収録（テスト中）

2. Namazu 検索の特徴

検索システムには namazu という定評のある検索ツールを使用しており、キーワードを入力してクリックするだけで、高速に結果を表示します。ただし通常のインターネット検索とちょっと違い、あまり長いフレーズや熟語などは苦手なので、単語ごとに短く切って入れるのが、うまく検索するコツです。氏名での検索も苗字と名前を区切って入れてやると、うまくヒットします（思うように必要な文献が得られないときは、キーワードの組み合わせを変えるなどの工夫をしてみてください。なお、土木図書館委員会では情報検索支援システム研究小委員会を設け、類義語表示やキーワードごとの件数表示などさらに使いやすい検索システムの今年度実用化を目指して、鋭意検討中です）（図2-1, 2）。

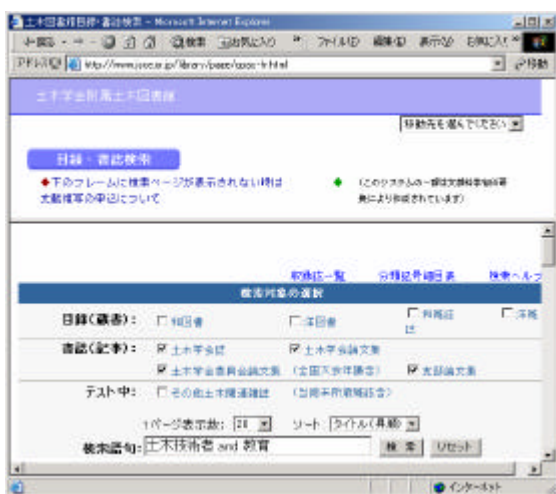


図2-1 検索キーワードの切り離し
（「土木技術者の教育」に関する文献が欲しい場合は、「土木技術者」とand「教育」と入力する）



図2-2 検索結果
（422件ヒット。「土木技術者の教育」ではヒットしない）

土木デジタルアーカイブス

1. 雑誌

戦前の土木学会誌をご覧になったことがあるでしょうか。土木デジタルアーカイブスでは、大正4年の創刊号から昭和30年までの土木学会誌を丸ごと pdf にして公開しています。また、土木学会の前身である工学会（現日本工学会）の明治14年創刊から大正10年に至る貴重な資料のうち土木篇をピックアップして公開、また満州土木学会で発行された「土木満州」その前身の「建設」、昭和初期の工事写真が豊富に掲載されている「土木建築工事画報」も全文を公開しています（図3-1）。



図3-1 「土木学会誌」(T4～S30)全文掲載ページ

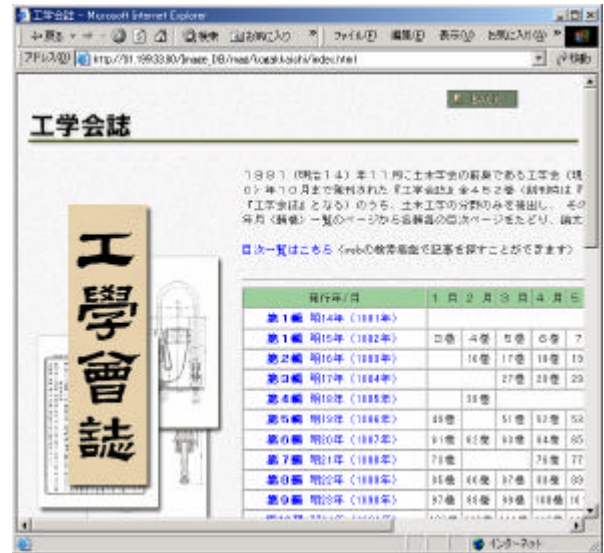


図3-2 「工学会誌・土木篇」(M14～T10)全文掲載ページ

2. 図書・基準類

土木に関する戦前の名著をご存知ですか。ここでは学会が選んだ戦前名著 100 書のうち第 1 期 45 冊を公開しています。また、内務省河川工事を中心に当時の工事報告書を 60 冊収録、併せて戦前の基準類のうち、道路構造令やコンクリート示方書などすぐには見られない貴重書を公開しています。



図3-3 戦前土木名著(第1期45冊)全文掲載ページ

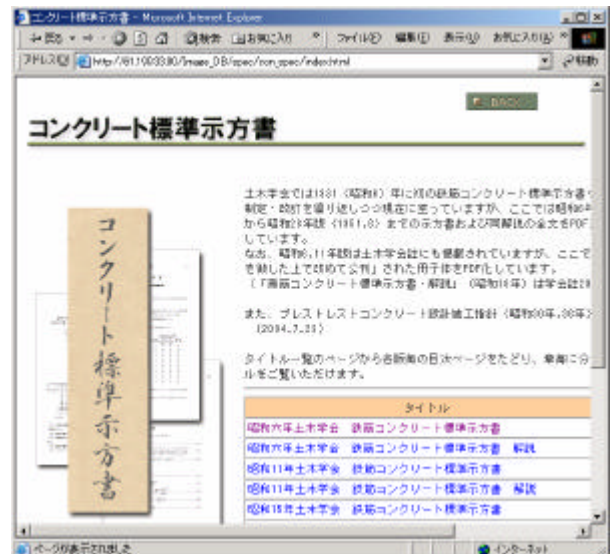


図3-4 「コンクリート標準示方書」戦前分全文掲載ページ

3. 土木絵葉書・土木写真

明治、大正、昭和初期には、土木構造物の完成を記念し多くの絵葉書が作成されましたが、ここでは土木図書館が所蔵する石川豊氏寄贈を含む絵葉書 3,600 点を公開しています。各々を 10 の分野に分類し、枚数の多い橋梁については都道府県別に分け、キャプションを付しています(図3-5)。

また、土木図書館が所蔵する震災復興写真 1,200 点、その他の工事写真 2,300 点についても一挙掲載、この中には、田島二郎氏の橋梁写真集、倉西茂氏の新潟地震記録写真集、永井俊一氏の永代橋写真集などのコレクションも収録されています。

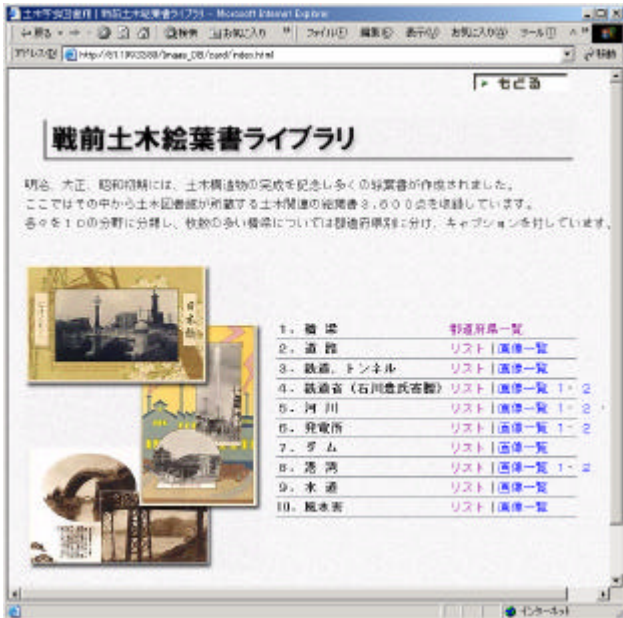


図 3-5 戦前土木絵葉書ライブラリー

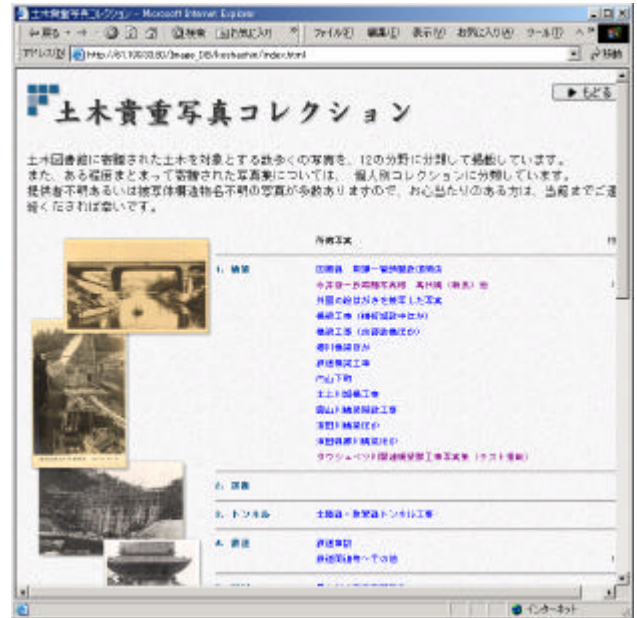


図 3-6 土木貴重写真コレクション

4. 歴史的鋼橋集覧・古市公威旧蔵写真館

「歴史的鋼橋集覧」は土木学会鋼構造委員会歴史的鋼橋調査小委員会から提供を受けた 900 橋のデータベースで、橋梁仕様データ、写真、位置図、一般図から構成され検索もできるようになっている。(図 3-7)

また、初代会長古市公威の所蔵していた写真 117 点に解題を付した「古市公威旧蔵写真館」と平成 16 年度に行った「生誕 150 年記念企画展」の様も収録している。



図 3-7 歴史的鋼橋集覧データベース

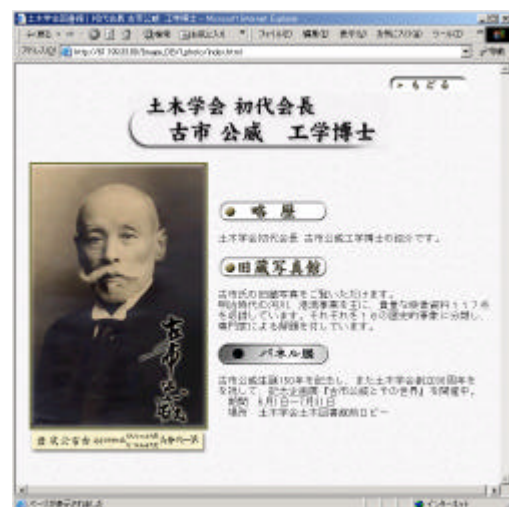


図 3-8 古市公威旧蔵写真館

以上の内容を表 3-1 に示しておきます。

表 3-1 土木デジタルアーカイブス公開項目リスト

種類	内容	収録範囲
戦前貴重雑誌全文	学会誌、論文集、工学会誌（土木篇）、建設、土木満州、土木建築工事画報などの目次 html 及び記事単位の全文 PDF	学会誌 大正 4 年（1 巻 1 号）～昭和 30 年（40 巻 12 号） 論文集 昭和 19 年（1 号）～30 年（30 号） 工学会誌 明治 14 年（1 巻）～大正 10 年（452 巻） 建設・土木満州 昭和 11～19 年 土木建築工事画報 大正 14 年（1 巻）～昭和 15 年（15 巻）（今年度掲載予定）
戦前名著・内務省関連資料	土木学会戦前名著 100 書 内務省土木出張所工事資料	45 冊 60 冊
土木写真・絵葉書	古市公威旧蔵写真、戦前絵葉書、震災復興写真、橋梁写真、工事写真などの jpg ファイル	古市公威旧蔵写真集 117 点（解題付） 戦前土木絵葉書 3,600 点 震災復興写真 1,200 点 橋梁写真 900 点 その他工事写真 2,300 点
歴史的鋼橋集覧	橋梁仕様データ、写真、位置図、一般図	歴史的鋼橋 900 橋（鋼構造委員会歴史的鋼橋調査小委員会提供）
基準類	道路構造令、コンクリート標準示方書	道路構造令 大正 8、昭和 3、昭和 10、昭和 11（解説） コンクリート標準示方書 昭和 6～26 年

今後に向けて

2 年前に新装オープンした土木図書館では、施設・機能・環境の充実をはかるとともに、情報化についても 15 年前から取り組んできた成果を更に拡張して、土木電子図書館（デジタルライブラリー）の構築を行ってきました。会員 4 万人のうち、地理的な条件から実際に来館して図書館サービスを受けることの出来る方は限られています。デジタル化やインターネットの普及、高速通信網の整備などによって地方会員でも気軽に土木図書館のサービスが受けられる時代になってきたことは、土木図書館委員会が当初から目指してきたことが徐々に実現していく過程であったとも言えます。とはいえ、超えるべきハードルはまだ残されており、会員が必要とする情報を手軽に提供できる環境の構築が必至です。

今後とも、土木図書館委員会では図書館活動を支援し、従来の図書館機能である土木学会ならではの資料収集・保管・提供と、情報技術を活用した電子図書館機能とを更に充実し、土木技術情報の蓄積・発信と会員サービスの向上に務めたいと考えます。

なお、データベースの充実には、会員各位のご支援・ご協力が何よりも必要となってきます。論文投稿時の原文電子データ及び書誌事項データがスムーズに書誌検索データベースに蓄積される仕組みを、皆様のお知恵を借りて実現していきたいと考えております。

以上